



髪を失った子どもたちへの支援の輪を広げようといわれた、ヘアドネーションのデモンストラクション＝酒田市

ヘアドネ浸透へ支援

酒田LC
小野木さん

酒田

小児がん治療
や無毛症などで

髪を失った子どもたちに対する支援の輪を広げようと、医療用ウィッグ(かつら)作りに役立てるヘアドネーション(髪寄付)のデモンストラクションが、酒田市内の美容室で行われた。

(佐藤寿美千代表)を訪れ、5、6年は伸ばし続けているという長さ約1分の髪の毛のうち、5割ほどを寄付に充てた。

ライオンズクラブ(LC)国際協会332-E地区(佐野宏美ガバナール)のFWT(ファミリー・アンド・ウーマン・チーム)が、昨年からの繰り広げる啓発活動の一環。地区FWTコーディネーターの小野木聡美さん(56)は酒田LCが7日、「ヘアメイクピス」

小野木さんは、長さをそろえるため6束に分けてカットした髪の毛を名残惜しそうに見つめながら、「医療用のほか、歌舞伎など地域の伝統芸能関係者なども、かつらを必要としていると聞く。寄付は気軽にできるの、行きつけの美容室などに問い合わせさせてみてほしい」と話していた。

切った髪は、医療用ウィッグの無償提供に取り組み「つな髪プロジェクト」に寄付した。(吉村瑛人)